豊崎小

主体的に学び合う子の育成

～少人数・複式学級における主体的・協働的な学びを生み出す授業づくり～

（３年計画の１年次）

校長　　久保　　亨

１　研究主題について

本校では、教育目標として「たくましく生きる子」を、知の努力目標として「自分の考えをもち、学び合う子」を掲げている。昨年度までの３か年では、「主体的に学びに向かう子の育成」を目指し、主に「自分の考えをもち、深める手立ての工夫」、「知的好奇心を高め、考える必要感がある課題提示や発問の工夫」、「学びを深め、次への意欲を高める振り返りの工夫」、「児童が自ら取り組む日常的な働きかけの研究と実践」について研究を進めてきた。

その結果、考える必要感がある課題提示や発問の工夫をすることにより、児童は主体的に学びに向かおうとする姿勢が身に付いてきている。また、自分の考えをもち、立場をはっきりさせ、さらに友達と意見交流をさせることで、表現したいという意欲を高めることができた。そして、振り返りの場面を設定し、「わかったこと」「次にやりたいこと」「疑問に思ったこと」などを書かせることで、児童は自分の到達度に気付き、教師は本時の定着度を図る手立てとなった。

しかし、課題として、発達の段階を考慮した振り返りのさせ方や、完全複式になることを見据え、児童自身が主体的に学習を進められるような、効果的な支援の仕方や学習の手順について研修をしていく必要があることが挙げられた。

そこで、今年度は、少人数・複式学級での授業の進め方の工夫や発達の段階を考慮し、観点を明確にした振り返りの工夫について研究していく。自分の考えをもち、主体的に学び合う子の育成を目指して、算数科を中心に研究を進めていきたい。

２　研究のねらい

自分の意見や考えをもち、主体的・協働的に課題を解決する児童を育成するための効果的な指導の在り方を、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

少人数・複式学級において、自分の考えをもった上で比べ合い、よりよい考え方を見つけようとする学習過程や指導・支援の在り方を工夫することにより、主体的に考え、学び合う力を高めることができると考える。

４　研究内容

(1) 少人数・複式指導のあり方

ア　複式学習の進め方

イ　学年に応じた間接指導の工夫

ウ　複式でも生かせる単式学級での授業の工夫

(2) 自分の学びを実感し、次への意欲を高める振り返りの工夫

ア　発達の段階に応じた振り返りの仕方

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名
１１	２１	教育指導課・総合教育センター訪問 第１回授業研究　４学年　算数　「小数のかけ算とわり算」 ５学年　算数　「平均とその利用」 授業者　木村　允一 指導助言：三八教育事務所　教育課　橘　宏卓指導主事
１１	２４	第２回授業公開　２学年　算数　「三角形と四角形」 ３学年　算数　「分数のひき算」」 授業者　佐々木　知佳子
１０	２５	第３回授業公開　１学年　算数　「０のたしざんとひきざん」 授業者　松生　章乃
１１	１６	第４回授業公開　６学年　算数　「表を使って考えよう（２）」 授業者　花田　貴光

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
5	３１	一人一台端末活用法 講師　八戸市総合教育センター　小向　一樹主任指導主事
6	１５	複式教育について 講師　三八教育事務所　教育課　橘　宏卓指導主事

６　研究の成果

(1) 前時までの学習内容や本時に関わる既習事項の掲示、課題を自力解決できるような問題提示の工夫をすることにより、児童は自分の考えをもち、課題解決に向かって主体的に学び合おうとする姿勢が身に付いてきた。

(2) 発達の段階に応じた振り返りの視点表を作成することにより、どの児童も明確な意思をもって振り返りをすることができた。また、タブレットを活用して振り返りを蓄積していくことは、自分の考えの変容に気付いたり、友達の考えに触れたりする機会となり、自分の学びを実感するための手立てとして有効だった。

７　研究の課題

(1) 複式指導における、直接・間接指導場面のより効果的な学習の進め方や授業構成の在り方について研究を深める必要がある。

(2) 振り返りを書くことはできるようになっているが、その内容にはまだ個人差がある。学びを深め、次への意欲を高める振り返りとしていくための研究に、継続して取り組んでいきたい。

（記入者　松生　章乃）